

伊勢半初・国際学会にて研究成果を発表 第34回国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）ブラジル大会2024 「口紅の結晶構造と物理的特性に関する研究：『しっとり感』の解析」

株式会社伊勢半（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：澤田晴子）は、2024年10月14日～17日にブラジル・イグアスで開催された、第34回国際化粧品技術者会連盟（IFSCC）ブラジル大会2024において、「口紅の結晶構造と物理的特性に関する研究：『しっとり感』の解析」に関するポスター発表を行いました。弊社として国際学会における研究成果の発表は今回が初となります。

■研究・発表概要

「口紅の結晶構造と物理的特性に関する研究：『しっとり感』の解析」

より優れた口紅を開発することを目指し行われた本研究では、口紅が形成される際にできる結晶構造と口紅を塗った際のしっとり感を探求しました。研究の結果、それらが塗膜の柔らかさ、広がりやすさ、なめらかさなどの、感覚的要因と関連していることを明らかにしました。さらに、そうした感覚的要因を高めるために用いる「**オイル・ワックスゲル**」が形成する結晶構造とその特性についても探求しました。

「オイル・ワックスゲル」は、化粧品の原料として多く使用される液体オイルと固形ワックスに熱を加えて混ぜ合わせ、冷やし固めることで作られます。固体でありながら擦るとオイリーなテクスチャーに崩れるため、しっとり感などを求める口紅をはじめとする化粧品に適しています。

そこで、X線解析を用いて様々なオイルとワックスの組み合わせを解析。その結果、柔らかくなめらかな「オイル・ワックスゲル」をつくるため、液体オイルの配合比率を増やし固形ワックスの配合比率を減らしても安定した**密度の高い「カードハウス構造（右図）」**を作成できる組み合わせを特定しました。この技術は口紅の構造安定性を高め、塗布時のしっとり感の向上に貢献することができます。

「オイル・ワックスゲル」の硬さをコントロールすることは、化粧品原料として使用するためには重要であり、製品の安定性や使用感をコントロールするためにも不可欠です。本研究では、こうした硬さの発展メカニズムを詳細に分析し理解を深めることで、より優れた口紅の開発を目指しました。

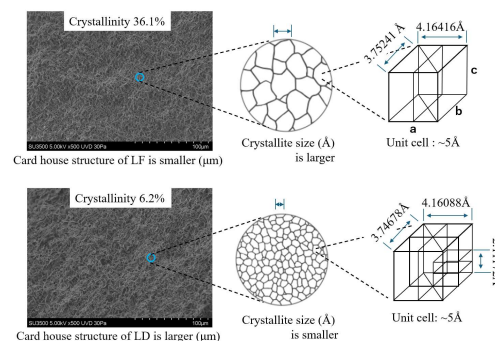


パク ジュンマン

朴 俊満

(Park Joonman)

研究員



結晶構造の比較

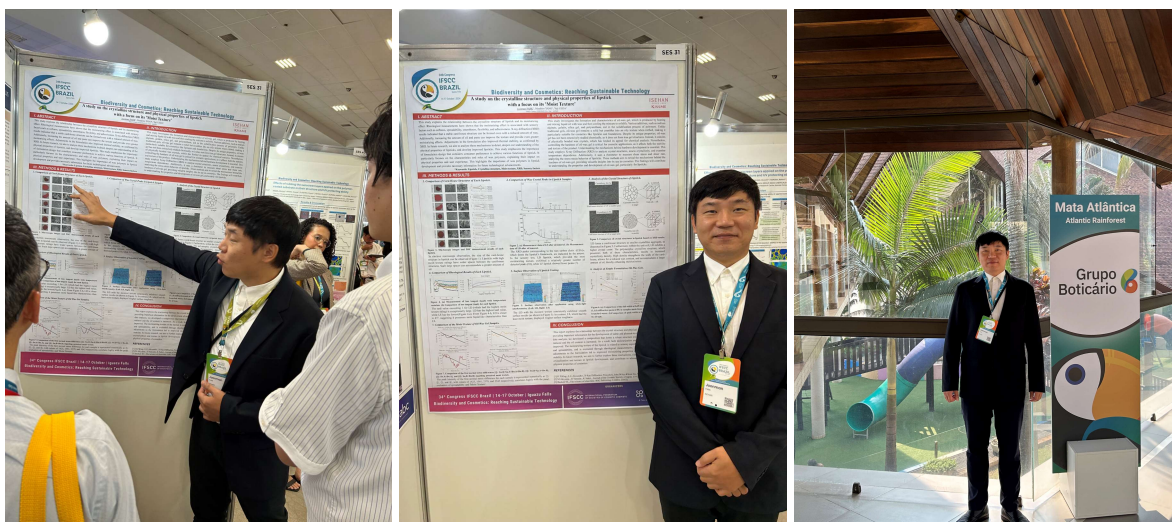
■IFSCC（国際化粧品技術者会連盟）について

IFSCC（The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists）は、日本化粧品技術者会（SCCJ）の上部組織にあたり、世界81の国・地域から51団体が加盟し、総会員数約16,000名の化粧品技術者で構成される組織です。

その学術大会には世界各地から化粧品技術者が一堂に会し、最新の研究成果の発表を行います。2024年はブラジル・イグアスで開催され（The 34th IFSCC Congress 2024 Brazil）、ポスター発表607件（日本から54件）、口頭発表82件（日本から10件）が行われました。

国際大会での発表は、研究成果の高い学術レベルをはじめ発表者の英語力など多様な能力が求められ、名実ともに化粧品をはじめとした関連分野における世界で最も権威のある研究発表の機会となっています。

2025年に創業200周年を迎える伊勢半グループでは、創業時より祖業の紅づくりを通じて守り継いできた、ものづくりに対する真摯なひたむきさで、今後も総合化粧品メーカーとしてお客様の「あしたはもっと、美しく。」を叶え、すべての人々の“あした”に、美しさという自信と希望をお届けして参ります。



本件に関するお問い合わせ先

伊勢半グループ広報担当

株式会社伊勢半 コミュニケーション本部 広報宣伝部 広報課 （担当：日下部）

電話：03-3262-3163 メール：pr-senden@isehan.co.jp

伊勢半グループホームページ：<https://www.isehangroup.jp/>